

通し番号	4 2 4 0
------	---------

分類番号	18-71-22-11
------	-------------

(成果情報名) 平成17年え付け採卵鶏の経済検定
[要約] 採卵鶏種の選定の一助とするため、県内で普及している採卵鶏の6銘柄、ジュリア、ジュリア・ライト(ライト)、デカルプ・TX(TX)、マリア、ソニア、ボリス・ブラウン(ボリス)について、経済検定を実施した。育成率は全銘柄で94%以上と良好であった。20~80週齢の成鶏期の成績では、産卵率は全銘柄が80%以上と良好で、特にジュリアとライトが優れていた。平均卵重はマリアが軽かった。日産卵量はジュリアとライトが優れていた。飼料摂取量はライトとソニアが多くマリアが少なく、飼料要求率はジュリア、ライト、TX、ボリスが良好であった。卵質のハウユニットはTXを除く銘柄で80%以上と高かった。卵殻強度はマリア、ソニアが低く、ジュリア、ライトが高い値を示した。肉斑はボリスとソニアに10数%認められた。収益性は、非規格卵価収益、規格卵価収益ともに、マリア、ソニアと比較して、ジュリア、ライトが高かった。
(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター 畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

採卵鶏の各銘柄は年々改良され性能・特徴が変化しており、各養鶏場に適合した銘柄を選定するか否かで養鶏経営の良否が分かれる。そこで、本県で普及している採卵鶏の銘柄について、それらの特質と能力を検定して養鶏農家における鶏種選定の指針を示す。

[成果の内容・特徴] (表1)

- 1 育成率は、全銘柄で94%以上と良好であった。
- 2 産卵率は、全銘柄が80%以上と良好で、特にジュリアとライトは90%程度と優れていた。
- 3 卵重は、マリアが軽く銘柄間差は3g程度であった。日産卵量は、産卵率が高かったジュリアとライトが優れていた。
- 4 飼料要求率は、ジュリア、ライト、TX、ボリスが2以下と良好であった。
- 5 ハウユニットは、TXを除く銘柄で80以上と良好であった。また、マリアは産卵後期の78週齢でも80以上を保持しており特に良好であった。
- 6 卵殻強度は、マリア、ソニアが低く、ジュリア、ライトが高い値を示し、卵殻厚、卵殻重、卵殻比率もほぼ同様の傾向であった。
- 7 収益性は、非規格卵価収益、規格卵価収益ともに、ジュリア>ライト>TX>ボリス>ソニア>マリアの順となり、上位のジュリア、ライトと、下位のマリア、ソニアには有意な差が認められた。

[成果の活用面・留意点]

銘柄の特徴(生産性、卵質等)を考慮して、それぞれの販売方式に適合した銘柄を選定することにより経営向上が期待できる。

[ 具体的データ ]

表 1 成鶏期の成績 (20~80週齢)

項 目		ジュリア	ライト	T X	マリア	ソニア	ボリス
生 産 性	産 卵 率 %	89.9 <sup>b</sup>	90.5 <sup>b</sup>	84.9 <sup>a</sup>	80.6 <sup>a</sup>	83.1 <sup>a</sup>	84.5 <sup>a</sup>
	平 均 卵 重 g	61.9 <sup>b</sup>	60.6 <sup>ab</sup>	61.4 <sup>b</sup>	59.0 <sup>a</sup>	61.8 <sup>b</sup>	62.1 <sup>b</sup>
	日 産 卵 量 g	55.6 <sup>d</sup>	54.9 <sup>cd</sup>	52.1 <sup>bc</sup>	47.4 <sup>a</sup>	51.3 <sup>b</sup>	52.3 <sup>bc</sup>
	飼料摂取量 g/日	103.5 <sup>ab</sup>	106.4 <sup>b</sup>	102.3 <sup>ab</sup>	98.8 <sup>a</sup>	106.2 <sup>b</sup>	104.0 <sup>ab</sup>
	飼料要求率	1.87 <sup>a</sup>	1.94 <sup>ab</sup>	1.97 <sup>abc</sup>	2.10 <sup>d</sup>	2.07 <sup>cd</sup>	1.99 <sup>bcd</sup>
	生存率 %	97.9	88.5	94.8	94.8	92.7	95.7
卵 質	ハウユニット	83.5 <sup>b</sup>	83.5 <sup>b</sup>	77.7 <sup>a</sup>	84.5 <sup>b</sup>	85.0 <sup>b</sup>	81.3 <sup>ab</sup>
	卵殻強度 kg	4.42 <sup>c</sup>	4.30 <sup>bc</sup>	3.97 <sup>ab</sup>	3.61 <sup>a</sup>	3.69 <sup>a</sup>	3.91 <sup>ab</sup>
	卵 殻 厚 mm	0.38 <sup>b</sup>	0.38 <sup>b</sup>	0.37 <sup>b</sup>	0.35 <sup>a</sup>	0.36 <sup>ab</sup>	0.37 <sup>b</sup>
	卵 殻 重 g	6.05 <sup>c</sup>	5.85 <sup>b</sup>	5.89 <sup>b</sup>	5.47 <sup>a</sup>	5.64 <sup>ab</sup>	5.90 <sup>b</sup>
	卵殻比率 %	9.40 <sup>c</sup>	9.38 <sup>c</sup>	9.24 <sup>c</sup>	8.85 <sup>a</sup>	8.93 <sup>ab</sup>	9.19 <sup>bc</sup>
	肉 斑 (%)	0.00 <sup>a</sup>	0.00 <sup>a</sup>	0.00 <sup>a</sup>	0.00 <sup>a</sup>	11.00 <sup>b</sup>	15.00 <sup>b</sup>
	ハック卵比率(%)(L~MS)	80.0	84.2	80.1	83.5	83.3	79.7
収 益	非規格卵価(円)	831 <sup>d</sup>	749 <sup>cd</sup>	668 <sup>bc</sup>	505 <sup>a</sup>	555 <sup>ab</sup>	622 <sup>abc</sup>
	規格卵価 (円)	1074 <sup>c</sup>	1008 <sup>bc</sup>	860 <sup>ab</sup>	715 <sup>a</sup>	788 <sup>a</sup>	854 <sup>ab</sup>

卵質は34週齢以降5回の平均。同一項目内において異符号間には有意差あり(P<0.05)

[ 資料名 ] 平成18年度試験研究成績書 (繁殖工学・養豚・養鶏)

[ 研究課題名 ] 採卵鶏の性能比較調査

[ 研究期間 ] 平成16~18年度

[ 研究者担当名 ] 平原敏史